

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲保 第 46号 乙保	氏名	中野 葉子
審査委員	主査 葉久 真理 副査 友竹 正人 副査 近藤 和也		

題 目

Nurses' perception regarding patient safety climate and quality of health care in general hospitals in Japan

(日本の総合病院における医療安全風土と医療サービスの質に関する看護師の認識)

著 者

Youko Nakano, Tetsuya Tanioka, Tomoya Yokotani, Hirokazu Ito, Misao Miyagawa, Yuko Yasuhara, Feni Betriana, Rozzano Locsin

2020年12月7日 オンライン掲載 Journal of Nursing Management (看護管理)

Article ID: JONM13215 Article DOI: 10.1111/jonm.13215

Internal Article ID: 16946828 に発表済

要 旨

患者が医療をサービス業として認識し、消費者としての権利意識が高まる社会背景の中での医療安全風土や医療の質に影響を与える看護師の属性や認識を理解することは重要である。本研究では、中国・四国地方にある入院病床が200床以上を有する11の総合病院における患者の安全環境と医療サービスの質に関する看護師の認識をWebでアンケート調査し、421人の有効回答を分析した。測定には、PSCS(医療安全風土尺度)と、許可を得て筆者らが翻訳改訂したM-SERVQUAL(日本の看護師の職場での医療サービスの質に対する認識)を用いた。

結果、看護師経験年数と関係を認めたのは、PSCS下位尺度の中の患者と家族の参画、並びにM-SERVQUALの総得点とその構成因子である信頼性、保証と応答であった。さらにPSCSとM-SERVQUALの間には相関関係が認められた。臨床経験が21年以上のグループは、6~10年のグループより、医療サービスの質に対する認識が高く、患者を支援し、迅速なサービスを提供する意欲が高かった。臨床経験の長さにより医療サービスの質に対する認識は異なるが、中堅とみなされる6~10年のグループにみられる役割葛藤の状況を理解して、医療サービスに対する認識を高める必要性が示唆された。本調査結果は、患者サービスを向上させるための改善点を示唆するものであり、本研究で明らかにされた医療安全風土や医療の質に影響を与える看護師の認識や属性は、医療サービスの質の向上につながる方策の策定に貢献すると評価できる。

論文審査の結果、博士の学位授与に値するものと判定した。